

発生と疾病に関するバイオフィトメカニクス研究

#生物物理

#臓器恒常性

#疾病

#光イメージング

研究
内容

私はレーザー光による複雑系ソフトマターの計測・制御を進めてきました。対象とするソフトマターは、タンパク質分子結晶から臓器までの幅広い「動く、生きたソフトマター」であり、そのしなやかさを生む「物性と構造」の定量解明を目指しています。

これまでに、独自のイメージング技術から肝臓や筋肉、大腸、軟骨といった多様な臓器の恒常性に力学特性（硬さ）が果たす役割を次々解明してきました。

今後もバイオロジー・フォトンクス・メカニクスの融合領域を皆さんと切り拓いていきます。

Develop+

応用分野

硬さに基づく再生医療、がん治療、メカノバイオフィotonクス



松崎 賢寿 MATSUZAKI Takahisa

附属フューチャーイノベーションセンター/
物理学系専攻 助教

応用物理学講座 分子フォトンクス領域 吉川研究室
若手卓越支援部門 若手卓越教員



論文・解説など

- [1] 松崎賢寿、超解像反射干渉顕微鏡の開発, 日本光学会「光学」2025
- [2] Matsuzaki et al., Proceedings of the National Academy of Sciences 2024.
- [3] Matsuzaki et al., J. Phys. Chem. Letter, 2022 (Suppl. Cover)&2024.

連絡先HP

